

東京都高体連ボート専門部主催のボート競技大会に関する

新型コロナウイルス感染症拡大防止ガイドライン

令和2年6月22日

(令和3年5月18日改訂)

東京都高等学校体育連盟ボート専門

1. 基本的考え方

選手・大会役員や補助員及び来場者の生命・健康の安全を最優先に注意を払い、安全第一で競技運営を行えるようにする。東京都および会場となる県のイベント開催や教育活動の方針に基づいて、以下の条件等が整い感染防止策を徹底することを開催の条件とする

- ① 学校教育活動が継続され、大会参加に向けた部活動の練習が実施されている。
- ② 各専門部の事業は、感染防止対策を徹底した上で、競技特性に応じて実施する。(※部活動が停止された場合は、中止または延期する。)
- ③ 各専門部は、本ガイドラインと競技別ガイドラインに基づいて、さらに感染防止対策を徹底する。
- ④ 参加校は、学校長の責任の下、参加生徒の健康観察及び保護者の内諾を得ることとする。
- ⑤ 大会は当面の間、原則として無観客の開催とする。

2. 大会開催時の感染防止策について

1) 全般的な事項

- ① 大会に参加する全ての者(選手・顧問・役員等会場内に入る者:以下参加者と表記)はマスクを着用するが、熱中症のリスクを考慮し状況に応じてはマスクをはずす
- ② 万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取扱いに十分注意しながら、大会当日の全参加者を把握するとともに、記録し、保存期間(一ヶ月以上)を定めて保存しておく
- ③ 大会後の参加者の新型コロナウイルス感染に備え、当日の参加者へ直ちに連絡できる体制を整えておく

2) 大会参加校が遵守する事項

この内容は、主催者が大会申込時に周知し、引率責任者が指導を徹底してください。

- ① 大会参加に当たっては、当面の間、生徒・保護者から同意書を得る
- ② 参加校は、大会参加者・引率者に大会参加同意書・健康チェックシートを提出させ、各校で一ヶ月程度保管するとともに、必要な場合には連絡がとれるようにしておく
- ③ 参加者が以下の事項に該当する場合は、参加校の責任において当該生徒の参加を見合わせる
 - ア 体調がよくない場合
(例:平熱を超える発熱・咳・咽頭痛・強いだるさ・息苦しさ・味覚嗅覚の異常などの症状がある場合)
 - イ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - ウ 濃厚接触者である場合
 - エ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- ④ 大会期間中、参加者・引率責任者は以下を徹底する
 - ア 参加者は、必ず当日の朝、自宅で検温を行い、平熱であることを確認し会場に入る
 - イ 特に生徒については、引率責任者が責任をもって体調を確認する
- ⑤ マスクは参加者が持参し、使用後は全てのゴミとともにビニール袋に入れて持ち帰る
(参加受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際や会話をする際にはマスクを着用する)
- ⑥ 消毒用アルコールは参加校が用意し、こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒や使用用具の消毒を実施すること 手拭き用のタオル等は各自持参させる

- ⑦ 他の参加者や役員等との距離(できるだけ2m以上)を確保する
- ⑧ 大会中に大きな声で会話、応援等をしない
- ⑨ 競技前後のミーティング等においても、三つの密を避ける
- ⑩ 感染防止のために主催者が決めた措置を遵守し、主催者の指示に従う
- ⑪ 参加者が大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、別紙フローを参照し、主催者に対して速やかに報告する
- ⑫ 当面の間、無観客で開催するため当日の入場に制限があることを保護者等に周知・徹底する
- ⑬ 会場への移動等は参加校が責任をもって集団感染のリスク(3密の条件)を避ける

3) 大会会場で準備すべき事項

- ① 会場出入り口や受付場所等
 - ア アルコール等の手指消毒剤を用意する
 - イ 受付時の会話は最小限とし、必ずマスクを着用する
- ② 会場
 - ア 艇庫内など屋内に長時間滞在しないように指導する
 - イ 本部会議室は常時窓を開け換気を喚起する 入室する際は手指消毒し、入室者を記録する
 - ウ 怪我人の処置室とは別に体調不良者用の待機場所を設置する
- ③ 飲食
 - ア 役員・選手とも、飲食場所の広さにはゆとりを持たせ、他の者と密になることを避ける
 - イ 大会中の飲食は必要最低限にとどめ、指定場所(役員は本部会議室、補助員は観覧席またはコース沿いの通路)以外では行わず、周囲の人となるべく距離を取って対面を避け、会話は控えめにする
 - ウ 選手の飲食は、参加校の責任において飲食させるとともに、ゴミはすべて持ち帰らせる
 - エ 飲食および水分摂取は個々に行い、水筒・ペットボトルなどを共用しない
- ④ ゴミの廃棄
 - ア ゴミは持ち帰りを原則とするが、鼻水、唾液などが付いたごみは、ビニール袋に入れて密閉して縛り、ゴミを回収する時は、マスクや手袋を着用する
 - イ マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒する

4) 大会運営(競技含)上の留意点

- ① 十分な距離の確保
 - ア 感染予防の観点から、更衣や準備運動等においては、周囲の人となるべく距離を空ける
 - イ 強度が高い準備運動等の場合は、呼気が激しくなるため、より一層距離を空ける
- ② 開会式・閉会式は行わない
- ③ 参加者・引率者以外の参加校関係者の応援・観覧目的の会場立入を禁止する
- ④ レース中の伴走(自転車使用に限らない)および声援を送ることは禁止する
- ⑤ 円陣・出艇時の声援は行わない、安全に関わる場合以外の大出しとメガホンの使用を禁止する
- ⑥ 会場内では乗艇時を除き常時マスク着用のこと、ただし、熱中症の恐れがある場合はこの限りではない
- ⑦ 記録は HP 等で発表し、密集を避けるため掲示板への掲示はしない
- ⑧ 参加者は消毒剤を持参のうえ、艇、オール、工具等を常時消毒する

5) 参加者の中に感染が判明した場合の対応

- ① 大会前
 - ア 感染者、濃厚接触者と特定され、大会当日に登校を許可されていない者の参加は認めない
 - イ 団体競技(ダブルスカル、舵手付クォドルプル)においては、参加申込後の選手変更を認める
 - ウ 個人競技(シングルスカル)においては、欠場とする
- ② 大会期間中

大会中に発熱等の症状を訴える者を確認した場合は、保護者に連絡し帰宅させる

③ 大会後

ア 感染者の所属する学校や行政機関の指示に従う

イ 当該校顧問は速やかに主催者(専門部)に報告する(別紙フロー参照)

ウ 専門部は、感染者が参加した大会当日に会場内にいたすべての学校と役員等に連絡する

エ 危機管理マニュアルに従って速やかに事故報告書を作成し、高体連事務局に報告する